

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
川場村	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	児童生徒へのアンケートから、児童生徒と地域の人との関わりは、令和6年度は前年比12%増であったが、地域と連携した教育課程の編成については、中学校(今後の7~9学年)年代で進みが思わしくなく、関わりは限定的である。	義務教育学校となり、1年生~9年生を3つのブロックに分けるため、新たに地域と連携した教育課程の再編成を行う。その際、定期会議において地域学校協働活動推進員と協働しながら、アイデアを取り入れていく。	地域連携担当教諭と推進員、教育委員会担当者が年間11回の定期会議を実施しているが、教育課程の編成について総合的な学習時間に終始し、その他の教科についての議題や話題は少なかった。	定期会議で検討され、地域の視点や推進員のアイデア等を取り入れた教育課程の実施により、教職員が各ブロックで育てたい子ども像に迫るための手立てが明確になり、地域と連携・協働することのよさを実感することができる。	年度末アンケートにおいて、「地域と連携・協働するよさを実感した」と答える教職員の割合	0	%	60	93	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。 アンケートにおいて「地域と連携・協働のよさを実感した」の回答が93%と目標値を上回った。今年度、小中一貫校である義務教育学校「川場学園」が開校し、学校内にコミュニケーションルームを設置した。また、学社連携担当教諭と推進員の会議を11回開催し、必要なボランティア等の打合せを実施したことも効果があったと考えられる。その一方で、推進員が調整しているものの、授業への打合せや教師の意図を汲み取りが課題として残った。そのため、打合せ等をスムーズに行えるシステムを来年度の会議で確認していく。	https://www.vill.kawaba.gunma.jp/kyourashi/fukushi/kyouiku/post_3.html